第4問 次の【問題文Ⅰ】の詩と【問題文Ⅱ】の文章は、いずれも馬車を操縦する「御術（ぎょじゅつ）」について書かれたものである。これらを読んで、後の問い（問1～6）に答えよ。なお、設問の都合で返り点・送り仮名を省いたところがある。（配点　50）

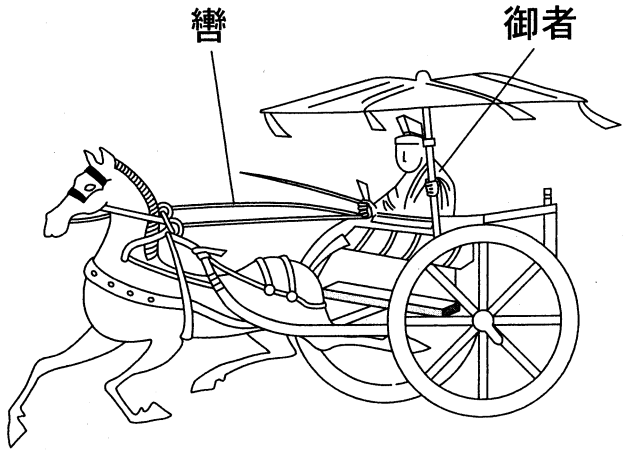
【問題文Ⅰ】

吾ニ有リ千里ノ馬一　毛骨(注1)何(1)蕭森(注2)タル
疾ハヤク馳スレバ如ク奔風ノ一　白日ニ無シレ留ムル陰ヲ
徐オモムロニカクレバ当タリニ大道ニ一　歩驟(注3)ホ中ニ五音(注4)ニ一

A
馬ニ雖モレ有リトニ四足一　遅速ハ在リニ吾ガ X 一
六轡(注5)ヒハリク応ジニ吾ガ手ニ一　調和スルコトシニ瑟(注6)シツ琴ノ一

B
東西ト与ニ南北一　高キニ下ス山ト与ヲレ林
惟意所欲適　九州(注7)可シニ周(2)ネ尋ヌ一
至レル(3)哉人ト与レ馬　両楽不ニ相侵サ一

（注）
1 毛骨――馬の毛なみと骨格。
2 蕭森――ひきしまって美しい。
3 歩驟――馬が駆ける音。
4 五音――中国の伝統的な音階。
5 六轡――馬車を操る手綱。
6 瑟琴――大きな琴と小さな琴。



馬車を走らせる御者

伯(注8)楽ハ識ニ其ノ外ヲ一徒(ア)知ニ価ノ千金ヲ一

王良ハ得ニ其ノ性ヲ一此ノ術固(イ)已ニ深シ

良馬ハ須ニ善(注9)馭ヲ一吾ガ言可シレ為スレ箴(注10)ント

7 九州――中国全土。
8 伯楽――良馬を見抜く名人。
9 善馭――すぐれた御者(前ページの図を参照)。
馭は御に同じ。
10 箴――いましめ。
(欧陽脩『欧陽文忠公集』による)

【問題文Ⅱ】

王良は趙国の襄主に仕える臣であり、「御術」における師でもある。ある日、襄主が王良に馬車の駆け競べを挑み、三回競走して三回とも勝てなかった。くやしがる襄主が、まだ「御術」のすべてを教えていないのではないかと詰め寄ると、王良は次のように答えた。

凡御之所レ貴、馬体(a)‖安ニ于車ニ、人心(b)‖調ニ于馬ニ、而ルレ後ニ可シニ以テ進速ムコトヲ(c)‖致スレ遠キヲ。C

今君後則欲レ逮レ臣、先則恐レ逮ニ于臣一。夫レ誘メテ道ニ争フレ遠キヲ、非ザレバ先ンズルニ則チ後ルル也。而シテ(d)‖先ノ後心ハ在リニ于臣ニ(e)‖。尚ホ何ヲ以テ調ハンニ於馬ニ。此レ君之所ニ以テ後ルル一也。

(『韓非子』による)

問1 波線部(ア)「徒」・(イ)「固」のここでの意味と、最も近い意味を持つ漢字はどれか。次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は 30 ・ 31 。

(ア)「徒」 30

① 只
② 復
③ 当
④ 好
⑤ 猶

(イ)「固」 31

① 強
② 難
③ 必
④ 絶
⑤ 本

問2 波線部(1)「何」・(2)「周」・(3)「至 哉」のここでの解釈として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は **32** ～ **34**。

(1) 「何」 **32**

① どこが
② いつから
③ どのように
④ どうして
⑤ なんと

(2) 「周」 **33**

① 手あたり次第に
② 何度も繰り返して
③ あらゆるところに
④ きちんと準備して
⑤ はるか遠くより

(3) 「至 哉」 **34**

① あのような遠くまで行くことができるものなのか
② こんなにも人の気持ちが理解できるものなのか
③ あのような高い山まで登ることができようか
④ このような境地にまで到達できるものなのか
⑤ こんなにも速く走ることができるだろうか

問3 【問題文Ⅰ】の傍線部A「馬雖レ有ニ四足一遅速在ニ吾 X 」は「御術」の要点を述べている。【問題文Ⅰ】と【問題文Ⅱ】を踏まえれば、【問題文Ⅰ】の空欄 X には【問題文Ⅱ】の二重傍線部(a)～(e)のいずれかが入る。空欄 X に入る語として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 35 。

① (a) 体
② (b) 心
③ (c) 進
④ (d) 先
⑤ (e) 臣

問4 傍線部B「惟 意 所 欲 適」の返り点の付け方と書き下し文との組合せとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は **36** 。

① 惟 意 所二欲 適一　　惟(た)だ意の欲して適(かな)ふ所にして

② 惟 意 所 欲レ適　　惟だ意(おも)ふ所に適(かな)はんと欲して

③ 惟 意レ所レ欲 適　　惟だ欲する所を意(おも)ひ適(ゆ)きて

④ 惟 意 所レ欲レ適　　惟だ意の適(ゆ)かんと欲する所にして

⑤ 惟 意レ所二欲 適一　　惟だ欲して適(ゆ)く所を意(おも)ひて

問5 傍線部C「今君後則欲レ逮レ臣、先則恐レ逮二于臣一。」の解釈として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は **37** 。

① あなたは私に後ろにつかれると馬車の操縦に集中するのに、私が前に出るとすぐにやる気を失ってしまいました。

② あなたは今回後れても追いつこうとしましたが、以前は私に及ばないのではないかと不安にかられるだけでした。

③ あなたはいつも馬車のことを後回しにして、どの馬も私の馬より劣っているのではないかと憂えるばかりでした。

④ あなたは後から追い抜くことを考えていましたが、私は最初から追いつかれないように気をつけていました。

⑤ あなたは私に後れると追いつくことだけを考え、前に出るといつ追いつかれるかと心配ばかりしていました。

問6 【問題文Ⅰ】と【問題文Ⅱ】を踏まえた「御術」と御者の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

解答番号は **38** 。

① 「御術」においては、馬を手厚く養うだけでなく、よい馬車を選ぶことも大切である。王良のように車の手入れを入念にしなければ、馬を快適に走らせることのできる御者にはなれない。

② 「御術」においては、馬の心のうちをくみとり、馬車を遠くまで走らせることが大切である。王良のように馬の体調を考えながら鍛えなければ、千里の馬を育てる御者にはなれない。

③ 「御術」においては、すぐれた馬を選ぶだけでなく、馬と一体となって走ることも大切である。襄主のように他のことに気をとられていては、馬を自在に走らせる御者にはなれない。

④ 「御術」においては、馬を厳しく育て、巧みな駆け引きを会得することが大切である。王良のように常に勝負の場を意識しながら馬を育てなければ、競走に勝つことのできる御者にはなれない。

⑤ 「御術」においては、訓練場だけでなく、山と林を駆けまわって手綱さばきを磨くことも大切である。襄主のように型通りの練習をおこなうだけでは、素晴らしい御者にはなれない。